

第3学年 道徳学習指導案

太田小学校3年 男子2名 女子6名 計8名

授業者 都 郷 禎 子

1 総合単元名 いのちを見つめて

2 総合単元設定の理由

生命の大切さはどれだけ強調してもし過ぎることはない。すべての道徳性は、生命が大切にされて初めて成り立つものだからである。「いのちって大切だな。」と思っはいるが、最近の子どもたちが、生命とのふれあいやかかわり合いを通して、生命の大切さを実感することが少なくなっていることは、学級の子どもたちの姿からもうかがうことができる。また、捕らえたカニの世話もせず、水そうの中で死なせたり、乱暴な言動で友達の心を傷つけたりすることもある。生命は大切だと思っても、それを意識して生活しているとはいえない。そんな子どもたちであるが、子どもたちの身近なところで「生命」を感じる場面がある。理科の時間には、教室で大事に育てたチョウのよう虫が羽化して飛び立ったり、種をまいて育てた植物に実ができたたりする様子を目の当たりにして、生命への驚きと感動を味わうことができた。

生命の大切さを理解させるには、まず自分の生命の大切さや自分の存在そのものの尊さに気付かせることが必要である。子どもたちの中には自分を肯定的にとらえられず、自分のことをあまり好きではない、自分のよいところが分からないというように、自分に自信がもてない子どももみられる。自分自身の存在の重要性を肯定できれば、他人を思いやることができ、他人の生命も自分と同じように大切だと実感できるのではないだろうか。

一人一人の子どもが、生まれてきたことを喜び、自他の生命の重さを深く感じ、限りある生命を大切にして生きていこうとする心情を育てていきたいと考え、本総合単元を設定した。

3 総合単元の目標

生命の尊さを実感し、生命を大切にして生きていこうとする態度を養う。

4 単元構成について

本総合単元では、学習の入り口の道徳の時間「生きているしるし」で、生命が誕生することのすばらしさに目を向けさせる。「ほくの生まれた日」では、自分の生まれた日をずっと覚えていようとするのび太の気持ちを考えさせることにより、自分は家族に大切に思われていることを改めて実感し、自分のよさを受け止めさせたい。「いのちのまつり」では、生命はバトンリレーのように、祖先、祖父母、父母と受け継がれたものであり、自分にとって、自分の周りにいる人にとってもかけがえのない大切なものであることに気付かせたい。「天国のたかし君 奇跡をありがとう」では、岡田たかし君が短い生涯を精一杯生き抜く姿をしっかりと見つめることを通して、一生懸命生きることのすばらしさを感じ取り、生命を大切にして生きていこうとする心情を育てたい。

総合的な学習の時間「生きるってすばらしい」では、聴診器を使って心臓の音を聞いたりお腹にいたときから生命は絶え間なく続いてきている話を聞いたりして、かけがえのない自分の命を感じさせた

い。また、自分の誕生や成長の様子、病気やけがをしたときのことなどを取材し、「いのちのファイル」にまとめていく中で、これまで家族に大切に守られてきたことに気付かせる。さらに、障害があっても明るく前向きに生きるゲストティーチャーの姿にふれ、生きる喜びや生き方に思いを向けさせたい。道徳の時間と、総合的な学習の時間や理科の体験活動との関連を図りながら学習を進めることで、生命がかけがえのないものであることを実感するとともに、自らも生きる喜びを感じ、精一杯生きていこうとする態度を養いたい。

総合单元名 「いのちを見つめて」

理科

「出かけよう
しぜんの中へ」

総合的な学習の時間「生きるってすばらしい」

- ・いのちのファイル
- ・耳の不自由な方との交流と手話についての学習
- ・目の不自由な方との交流と盲導犬についての学習

	10月29日	11月5日	11月12日	11月19日・20日(本時)
主 題	生命の尊さ	家族の願いとわたし	つながる生命	せいいっぱい生きる
資 料 名	生きているしるし	ぼくの生まれた日	いのちのまつり	天国のたかし君 奇跡をありがとう
出 典	日本標準 「みんなで考える どうとく3年」	文溪堂 「4年生のどうとく」	日本標準 「みんなで考える どうとく3年」	フジテレビVTR アンビリバーボー
内 容 項 目	3-(1) 生命尊重	4-(3) 家族愛	3-(1) 生命尊重	3-(1) 生命尊重
心のノート	P56~57	P80~81	P58~59	P58~59



〈常時活動〉

- ・1分間スピーチ(朝の会)
- ・友達のよいところ、見つけよう(帰りの会)
- ・ニコニコカード(友達にしてもらってうれしかったこと、友達ががんばっていることなどをカードに書きとめる。)
- ・学級の係活動(学級を楽しくする係を考え、活動の内容を工夫し、自主的に取り組む。)
- ・朝の読書・読み聞かせ(「いのちのおはなし」「わすれられないおくりもの」)

5 本時の学習

(1) 主 題 名 せいいっぱい生きる

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

3-(1)	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。
-------	--------------------------

生命は何ものにも代えることのできない尊いものである。生命には限りがあり、同じ生命は二度と生まれえない。限りある生命だからこそ、人として充実した生き方を求めることが大切となる。しかし、普段の生活の中で「生命を大切に生きて生きる」とは、どのようにすることなのかを考えたり実感したりすることはほとんどないと言えるだろう。生命の大切さを理解できるようになってきていると言われるこの時期に、生命の尊さを感じ取り、限りある生命だからこそ人としてよりよく生きようとする心を育てることは、大事なことだと考える。限りある生命を大切に生き抜く人を取り上げ、その人の生き方について学ぶことを通して、生きる喜びを感じて今を精一杯生きることの大切さに気づき、生命あるものすべてを大切に生きていこうとする心情を育てたい。

〈子どもの実態〉

本学級の子どもたちは、生命を大切にしなければならないということは知っている。しかし、日々の生活を見てみると、友達が話しかけているのに知らん顔をして悲しい思いをさせることがある。友達存在を軽く扱い、一人の人間として大切にしているとは言えない。また、物事に取り組む前からあきらめたり、困難な場面におつかると投げやりになったりして、自分のもてる力を十分出し切っていない姿も見られる。これでは、生きる喜びを感じながら精一杯生きているとは言いがたい。生命を大切にすることは、自分の生き方はもちろん周りの人の存在も大切にすることではないだろうか。

そこで、本時では、岡田たかし君の生き方に焦点を当て、たかし君の生き方をしっかりと見つめることを通して、生命の限り生きることのすばらしさを感じ取らせるとともに、よりよい自分になるためにはどう生活していけばよいのかも考えさせたい。

〈資料について〉

岡田たかし君は、5歳の時に心筋症と診断され、その後脳梗塞で倒れた。右半身に障害が残り、言葉も話せなくなる。そんなとき、同級生から千羽鶴とみんなの声を録音したテープが届く。そのテープを聞いたたかし君に言葉が戻り、友達に支えられながら楽しく学校生活を送る。友達にもらったことを感謝し、「みんなにお返しをしたい。」と思うようになり、自分にできることを実行していく。

たかし君が、周りの人の心を大切に、一生懸命生き抜く姿に感動させたい。短い生涯を精一杯生きるたかし君の姿や思いに寄り添いながら、生命を大切に生きていこうとすることなのか、共に考えていきたい。

資料名「天国のたかし君 奇跡をありがとう」(フジテレビ アンビリーバボー)

(3) ね ら い

一生懸命生きることのすばらしさに気づき、生命を大切に精一杯生きていこうとする心情を育てる。

(4) 展 開

学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点
1 ビデオを見る。	○今日は「いのちを見つめて」の最後の時間です。岡田たかし君の生き方を勉強しながら、「せいっぱい生きる」ということについて、考えていきましょう。	・友達のテープを聞いて、たかし君に声が戻った場面を見せ、ねらいとする価値にかかわる意識をもたせる。
2 ビデオや写真を見て、たかし君の思いや生きる姿勢について話し合う。 ・テープを聞いて声が出たとき ・人形劇の練習をしていたとき ・生まれた子うさぎを見たとき ・たかし君が最期まで生きよう生きようとしたとき	○たかし君はテープを聞いて、声が出るようになりましたね。なぜこんな奇跡が起こったのでしょうか。たかし君は、言葉を話せるようになって、どんなことを思ったでしょう。 ・「もしかしたらもうだめかも」と思っていたのに友達の声を聞いて元気になった。 ・友達のおかげで声が出た。今度はほくがお返しをしたい。 ○たかし君は、どんなことを考えながら、夜中まで人形劇の練習をしたのでしょうか。 ・センターの人に人形劇を楽しんでほしい。 ・友達が協力してくれるからがんばらなくちゃ。 ○たかし君は生まれた子うさぎを見て、どんなことを考えたでしょう。 ・うさぎの命が助かってよかった。これからも元気に育ててほしい。 ○たかし君は自分の命をどんなに生きたと思いますか。 ・自分ができることを精一杯がんばったから、命を大事にしたと思う。 ・たかし君の命は短かったけど、人の役に立つことをして、一生懸命生きたと思う。	・声が戻ったのは、友達の励ましとともに、たかし君自身に生きたいという気持ちがあったことに気付かせる。 ・友達を大切にしたい、自分も誰かの役に立ちたいと考えるようになったたかし君の気持ちをつかませる。 ・眠気と緊張でへたりこんでも自分ができるとして喜んでもらいたいと、人形劇の練習を続けるたかし君の思いに共感させる。 ・たかし君が送ったにんじんの助けでうさぎたちの生命が助かり、子うさぎへと生命がつながっていったことに気付かせる。 ・生命には限りがあるが、与えられた自分の命を精一杯生き抜くことが、生命を大切にすることにつながるということに気付かせる。
3 今までの自分を振り返り、これからの自分の生き方について考える。	○たかし君の生き方を勉強して、一番大切にしたいのは、どんな生き方ですか。みなさんは、たかし君のどんな生き方を取り入れていきたいと思いますか。 ・周りの人のために、自分にできることを精一杯して生きていきたい。 ・自分が本当にやりたいことを見つけ、一生懸命取り組んで生きていきたい。	・学習したことから日々の暮らしを振り返らせ、かけがえない生命を大切に生きていこうとする思いを深めさせる。
4 教師の話聞く。	○みなさんに、お手紙が届いています。	・たかし君のお母さんからの手紙を読み、実践への意欲を高める。

(5) 評価の観点

- ・たかし君が、一生懸命生きようとするすばらしさを感じ取ることができたか。
- ・生命の大切さを実感し、生命を大切に生きていこうとする意欲をもつことができたか。